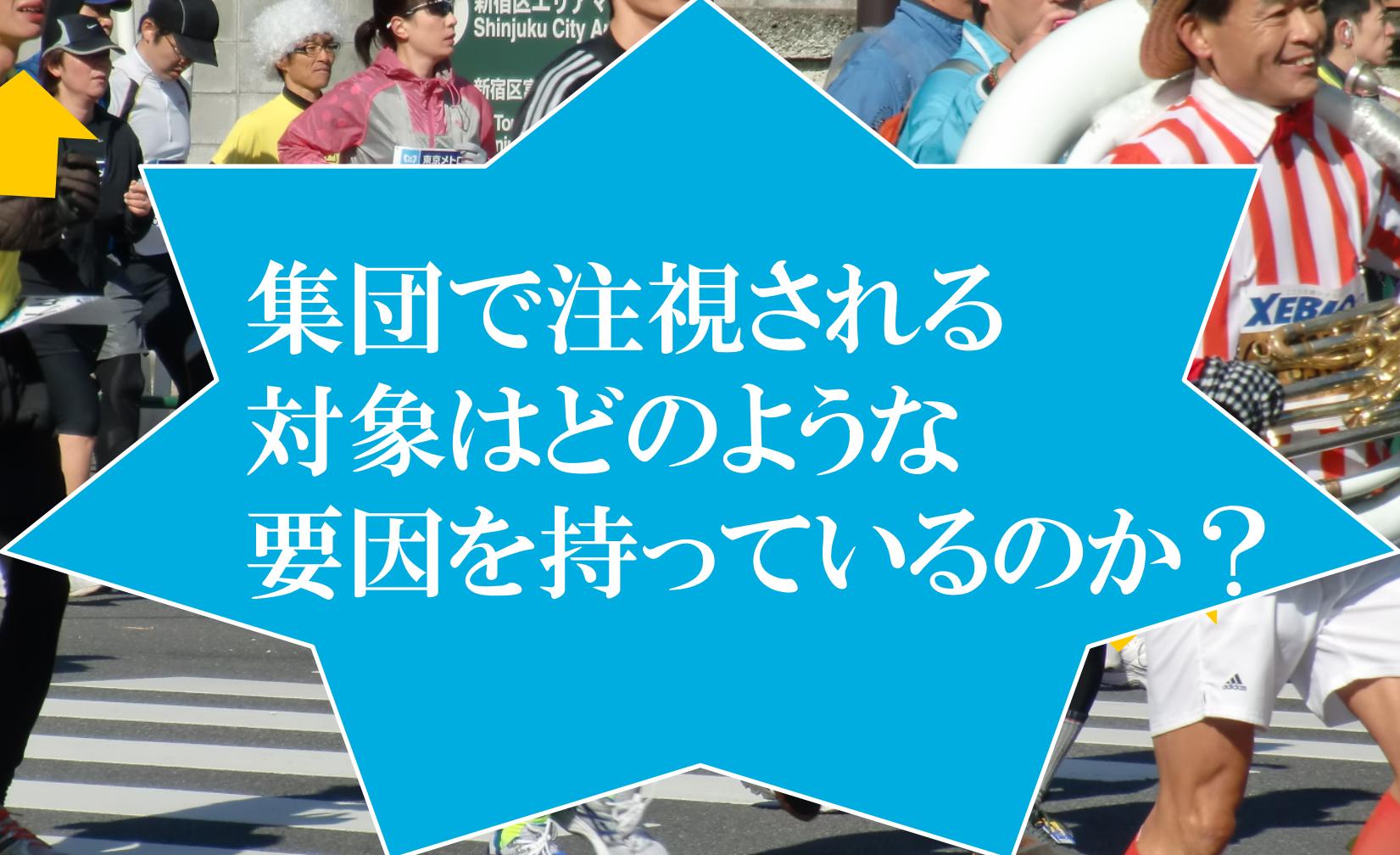


集団に対して向けられる 視線の計測

心理情報学科
盛田 和希
伊丸岡研究室



集団で注視される
対象はどのような
要因を持っているのか？



人間的な特徴における誘目性

- 釣ら(2007)の研究によると、
人は人間的な特徴(顔、人体)に対し、高い誘目性
→検出は反射的



注視における興味と視野の広さ

- 小林ら(1999)によると、

人間の眼球運動における注視は、
視対象に対する興味の度合いに対応する。

- 視野の広さは 男性 < 女性

予備実験

- 被験者

色覚異常の無い金沢工業大学の男子学生1名

- 装置

PC(Mac mini Apple.inc)、42型テレビ、眼球運動測定装置(EyeLink II, SR Research)、頸乗せ台

予備実験

- 刺激

集団の人、背景の映っている写真55枚

- 手続き

眼球運動測定装置装着→実験を開始

特定の課題を設定せず、

刺激写真の好きな場所を見てもらう

刺激の呈示方法

2秒

15秒

2秒

15秒



予備実験結果



結果・考察

- 最初に注視、多く注視される対象
背景のもの < 人間 < 体 < 頭
- 特に被験者の異性に対して多くの注視
- 大きな文字や看板、ポスターなども注視されやすい
- 色における誘目性は特に感じられず

仮説

- 最初に注視、多く注視する対象
背景の性別
人間の場
- 被験者
男性は女性を
- 視野の広さにおける性差も確認できるのでは？

本実験では
仮説の検証

本実験

- 被験者
色覚異常の無い金沢工業大学の学生12名(男8,女4)
- 装置・刺激・手続き
すべて予備実験と同様のものを使用した。

仮説の検証を行うにあたって

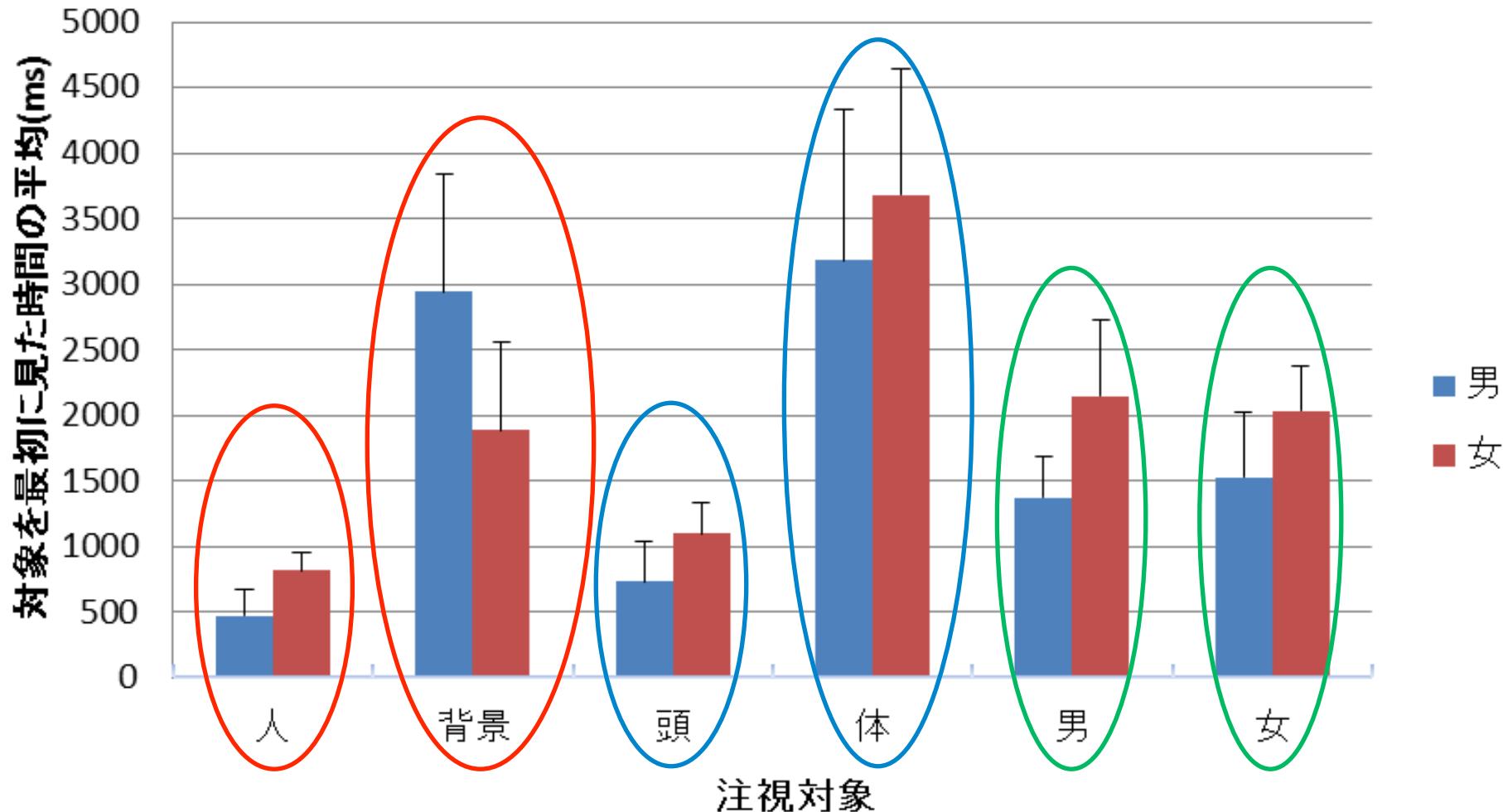
- 刺激写真を各領域に分割
- 各領域に視線が向く時間や回数を計測



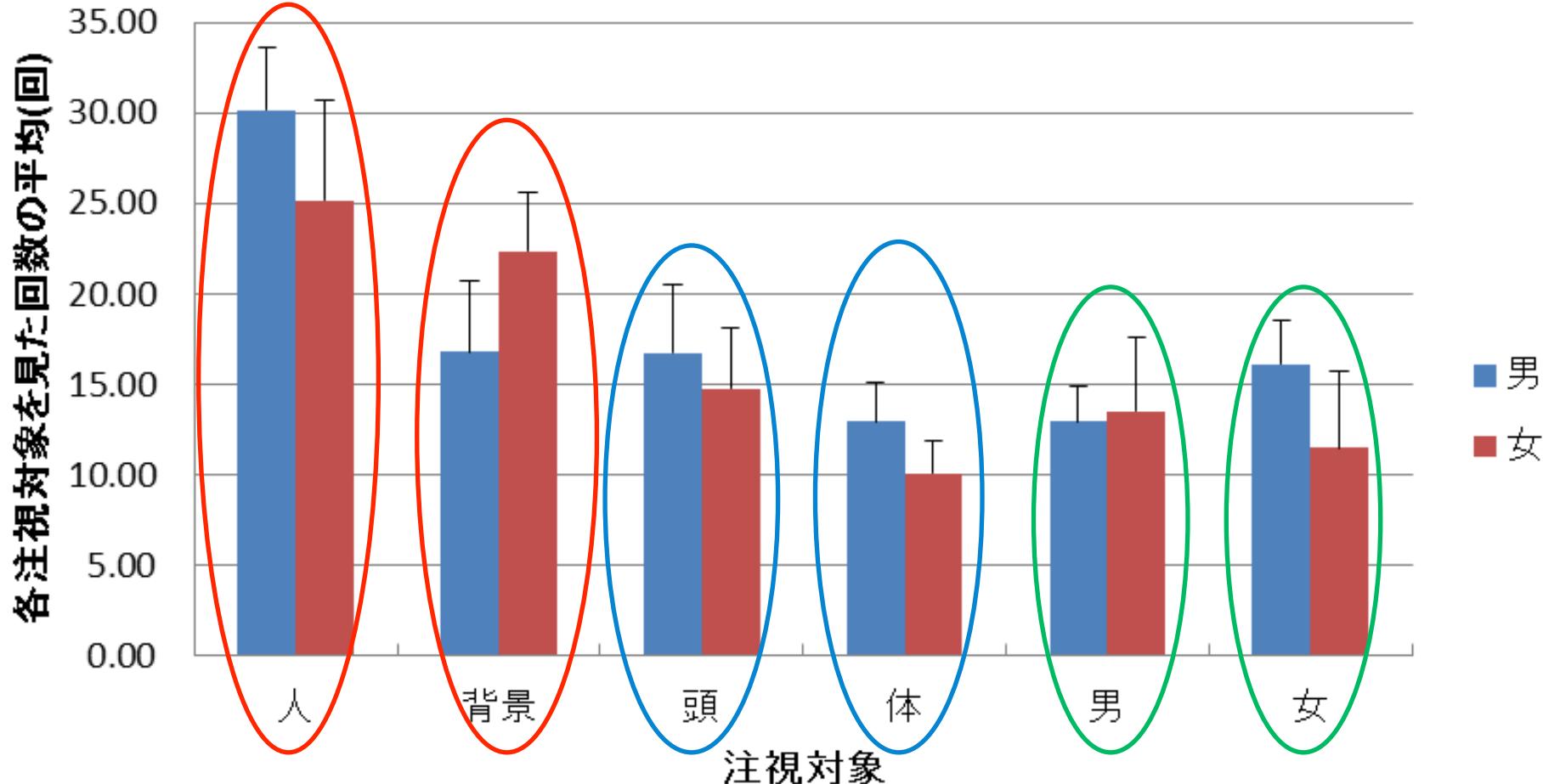
各領域

人 背景
頭部 身体
男性 女性

結果 対象を最初に注視した時間の平均



結果 対象を注視した回数の平均



考察 仮説の検証

- 男女共に 背景<人間 体<頭 が
最初に、かつ多く注視されやすい という仮説
- 男性→仮説と一致
- 女性→注視時間は仮説と一致したが
注視回数は人と背景が同じ程度であり、不一致

考察 仮説の検証

- 性別が注視に影響する という仮説
- 男性→異性を多く注視する傾向があり、一致
- 女性→男女共に同じ程度注視するので、不一致

まとめ

- 男女共に当てはまること

最初に人間に視線を向けやすく、主に頭部に注目する
視対象の性別関係無し



釣ら(2007)の研究と同様の結果
反射的に人間的要素を注視

まとめ

- **男性**
 - 人間(特に異性)に対して多く視線を向ける
 - 背景に目を向けるまで時間がかかる(人を長く見る)
- **女性**
 - 全ての対象をバランスよく注視
 - 男性よりも先に背景に目を向けやすい

興味の度合い
視野の広さの違いが影響

文献

- 釣大輔・石井雅博・唐政・山下和也 (2008).顔・人体への誘目性を考慮した視覚探査モデルの提案 電子情報通信学会技術研究報告, 107(538), 163-166.
- 小林洋美・幸島司郎(1999). コミュニケーション装置としてのヒトの目の進化 電子情報通信学会誌, 82(6), 601-603.